

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 保 第 号 乙 保	氏 名	今井 芳枝
審査委員	主 査 岩佐 幸恵 副 査 谷 洋江 副 査 近藤 和也		

題 目 転移のある高齢がん患者の治療に対する納得の要素

著 者 今井芳枝, 雄西智恵美, 板東孝枝

2016年12月発行 日本がん看護学会誌 第30巻第3号19～28ページに発表済

要 旨 進行した高齢がん患者にも積極的治療の適応が拡大し、身体・心理・社会的な虚弱な要素をもつ高齢者にとっては治療に対する“納得”が一層重要となる。本研究では、転移のある高齢がん患者の治療に対する納得の要素を明らかにし、支援のための手がかりを得ることを目的とした。がんの治療過程にある転移のある高齢がん患者20名を対象に半構造化面接法を実施し、Krippendorffの内容分析の手法を参考に分析した。その結果、転移のある高齢がん患者の治療に対する納得の要素として、【自分を救おうとする強い意志】【生きるための治療であるとの確信】【治療の可能性への期待】【信じて任せられる最善の治療であるとの判断】【周りへ報いたいとの希求】【治療を含めて生ききる人生の受け容れ】の6つのカテゴリーが抽出された。これらから、転移のある高齢がん患者の治療に対する納得の要素の特徴として、1つは患者自身の価値が治療状況に反映していることであり、2つ目は、自己の利害にとらわれずに周りの人達の気持ちを察し、それを自分の気持ちや意思として汲み取るという特徴が推察できた。3つ目として、治療だけでなく、自分の人生に対するあり方や生き方をも含めて今の状況を受け入れるという特徴が捉えられた。以上の内容は、転移のある高齢がん患者が治療への納得に至るためには、自分の人生において治療をどう位置づけ、残りの人生をどう全うするのか、その中心にあるのが納得であることを示唆するとともに、高齢者ががん患者にとって心的エネルギーになることを示している。高齢がん患者が増加の一途をたどる今日において、高齢がん患者のケア開発の視点としてその社会的意義は大きく、博士の学位授与に値すると判定した。